

日蘭交流四〇〇年にあたって

佐藤 一男

(会員 長崎県吉井町)

拝啓、桜の花も三分咲き、日増しに春めいて参りました。先日は突然参上して失礼いたしました。手許に昨年作製した資料がありましたので御送付します。御笑納下さい。

昭和二十四年七月、直川村を出てから五十年になりました。先祖が四〇〇年もの昔から直川村に住みついた事から考えると、五〇年は四〇分の五にしか過ぎません。

土着という言葉、年を取るにつれて深くなります。「故郷忘れ難く候」とばかり墓地も水口に造っています。昔の庄屋の分家の墓(保兵衛家)跡です。

東の果てから西の果てにタンポポの種子と共に、阿蘇山を越えてやって来た思いです。昨年は郷里(くに)を出てから五十年という気持ちで、平戸・北松浦郡・佐世保

市六〇キロに互り一里塚を建立しました。或る意味では私の五十年の記念碑と思っております。吉井史談七号はそういう意味での編集でもありました。今年は日蘭交流四〇〇年に当たり、出島が復元されました。四月二十日の記念式典には参加して参ります。

中西礼の長崎ぶらぶら節のコピー同封します。是非本文をお読みになることをおすすめします。長崎のことがよく判り感動する筈です。

とりとめのないことでしたが御許し下さい。今年の秋の長崎おくんちは賑うはずですが、是非遊びに御出でて下さい。案内します。では又

四月一日

佐藤一男

佐藤一男氏紹介

(紹介者 さとうたくみ)

氏は昭和二年三月二十一日、南海部郡直川村大字下直見水口に生まれ、昭和二〇年旧制佐伯中学校を卒業しています。その後、熊本工業専門学校土木工学科を卒業、北松浦郡吉井町に三国建設株式会社を設立して、昭和

五十二年より代表取締役社長となり現在に至っています。その間、業界内外で活躍され数々の表彰を受けています。

古くからの佐伯史談会会員で、藩政時代の下直見村大庄屋佐藤氏とその一族についての研究をライフワークとされていましたが、平成元年に在任地で吉井史談会を発足、このとき佐伯史談会の規約を参考にされたそうです。平成六年から会長に就任、一〇周年記念に「平戸街道は蘇る」を刊行。このたび吉井史談会会報七号までと記念誌「平戸街道は蘇る」を佐伯史談会にご寄贈いただきました。氏の寄稿文とお便りを紹介して、お礼にかえさせていただきました。ありがとうございます。

【吉井史談会】

創刊号（平成元年）吉井史談会を考える

第二号（同二年）志佐純元とその子孫たち

第三号（同三年）城主の墓（一）

第四号（同五年）大分県物語

第五号（同六年）文化財を守るろう

第六号（同八年）五十年前の日誌

記念号（同十年）序にかえて

第七号（同十一年）吉田松陰と西遊日記

『新刊紹介』

ふるさとを語る 第二集 A5版 五十一頁

ふるさとを



語る会では平成十年発行の第一集「杖」に続き今回第二集として「わらべ唄・

仕事唄」を発

刊する運びとなりました。集録した曲目数はわらべ唄が五十六曲、仕事唄が二十七曲の計八十三曲で、簡単な解説と歌詞を採用した地域名や、四人の女性会員による想い出など併記しています。

価格は五百円です。購入ご希望の方は早めに申し込んで下さい。部数に制限がありますので、

申し込み先 事務局 ☎二二一七一一三三 河野

または ☎二二一六三三三八 林 まで。